

110 japanese famous songs

日本名歌110曲集

2

全音楽譜出版社

●———目次（カッコ内は作者）

●中山晋平

波浮の港（野口雨情）	6
出船の港（時雨音羽）	8
鐘をおさめて（時雨音羽）	10
旅人の唄（野口雨情）	14

●斎藤佳三

ふるさとの（三木露風）	15
-------------	----

●山田耕柝

赤とんぼ（三木露風）	16
砂山（北原白秋）	17
箱根八里は（日本古謡）	18
待ちぼうけ（北原白秋）	20
かやの木山（北原白秋）	22
野薔薇（三木露風）	24
愛と祈り（大木惇夫）	26
唄（三木露風）	33
みぞれに寄する愛の歌（大木惇夫）	36
からたちの花（北原白秋）	40

●多 忠亮

宵待草（竹久夢二）	44
-----------	----

●名倉 晰

こおろぎのうた（室生犀星）	45
ひぐらしのうた（室生犀星）	48
草矢（春日順治）	52

●近衛秀麿

ちんちん千鳥（北原白秋）	54
--------------	----

●橋本国彦

お菓子と娘（西條八十）	57
薔薇（西條八十）	60
旅人の歌（佐伯孝夫）	62
巴里の雪（西條八十）	64
アカシヤの花（松坂直美）	66
斑猫（深尾須磨子）	69
徹（深尾須磨子）	75

●高階哲夫

時計台の鐘（高階哲夫）	84
-------------	----

●小田達吾

朝（島崎藤村）	86
---------	----

●高木東六

かもめ（野口雨情）	88
水色のワルツ（藤浦 洸）	90
紺屋のおろく（北原白秋）	93
浅き春に寄せて（立原道造）	100
夢見たものは（立原道造）	106

●斎藤太計雄

日の入り（北原白秋）	114
------------	-----

●平尾貴四男

栗問答（梅木三郎）	116
変笛（萩田義雄）	119
逃げた小鳥（武田雪夫）	124
海に寄する歌（萩田義雄）	126

●越谷達之助

初恋（石川啄木）	128
やわらかに柳あおめる（石川啄木）	130
口笛（石川啄木）	132
夢の子守歌（越谷達之助）	134

●古閑裕而

白鳥の歌（若山牧水）	135
------------	-----

●石田一郎

山なみとおく（三好達治）	136
--------------	-----

●平井康三郎

祭りもどり（北原白秋）	138
追分（北原白秋）	139
あの子この子（北原白秋）	141
びいでびいで（北原白秋）	142
山は雪かよ（北原白秋）	144

●細谷一郎

朝のいのり（鐸木 孝）	146
-------------	-----

●福井文彦

桜の歌（佐藤惣之助）	147
かんぴょう（北原白秋）	148

●小船幸次郎

ブーンブーム・第一章（北原白秋）	150
ブーンブーム・第二章（北原白秋）	156
ブーンブーム・第三章（北原白秋）	162
ブーンブーム・第四章（北原白秋）	168

●安部幸明

かけす（葦田義雄）—————176

●市川都志春

今この庭に（三好達治）—————178

●石渡日出夫

汚れっちまった悲しみに（中原中也）——181

霧（北原白秋）—————186

●高田三郎

小譚詩（立原道造）—————189

雨は降る（野上 彰）—————194

蛇は飛ぶ（野上 彰）—————197

市の花屋（深尾須磨子）—————199

冬の森（深尾須磨子）—————202

●伊福部 昭

ai ai gomteira（伊福部 昭）—————205

Bulū bulū（伊福部 昭）—————208

Buppun lū（伊福部 昭）—————212

●柴田南雄

序の歌（立原道造）—————214

落葉林で（立原道造）—————218

さびしき野辺（立原道造）—————221

夢のあと（立原道造）—————224

●八州秀章

さくら貝の歌（土屋花情）—————228

●山田和男

風の又三郎（宮沢賢治）—————231

●磯部 徹

遙かな友に（磯部 徹）—————235

天景（萩原朔太郎）—————236

松の花（大木惇夫）—————242

●塚谷晃弘

花のいのち（神保光太郎）—————247

●貴島清彦

花柑子（伊良子清白）—————250

●小倉 朗

遠い町（木下夕爾）—————254

汽車のけむり（木下夕爾）—————256

犀川（室生犀星）—————260

●石井 歆

馬車（三好達治）—————264

蟬（三好達治）—————266

●畑中良輔

秋の空（八木重吉）—————268

秋（八木重吉）—————269

夕焼（八木重吉）—————270

花林（杉浦伊作）—————272

●中田喜直

夏の思い出（江間章子）—————277

雪のふるまを（内村直也）—————278

アマリリス（長崎 透）—————280

さくら横ちょう（加藤周一）—————282

●大中 恩

しぐれに寄する抒情（佐藤春夫）—————286

●團 伊玖磨

花のまち（江間章子）—————290

●諸井 誠

蓑着て通る（泉 鏡花）—————292

あの紫は（泉 鏡花）—————294

ぶらんこ（白鳥省吾）—————298

●湯山 昭

レモンと海（中村千栄子）—————300

●田頭喜久彌

梵のうえ（三好達治）—————302

沖の小島（国木田独步）—————306

●三善 晃

駅（高田敏子）—————307

忘れられた海（高田敏子）—————310

林のなか（高田敏子）—————314

枯れ葉（高田敏子）—————317

●瀬下健二

沼べりの秋（長崎 透）—————321

千鳥（長崎 透）—————326

祭りの夜（長崎 透）—————328

●高槻晋次

仮想（牧野みさ）—————332

祈り（八木重吉）—————334

●—————索引（五十音順・カッコ内は作曲者）

㊦ai ai gonteira（伊福部 昭）	205
愛と祈り（山田耕筰）	26
赤とんぼ（山田耕筰）	16
アカシヤの花（橋本国彦）	66
秋（畑中良輔）	269
秋の空（畑中良輔）	268
朝（小田進吾）	86
浅き春に寄せて（高木東六）	100
朝のいのり（細谷一郎）	146
あの子この子（平井康三郎）	141
あの紫は（諸井 誠）	294
蛇は飛ぶ（高田三郎）	197
アマリリス（中田喜直）	280
雨は降る（高田三郎）	194
い 登のうえ（田頭喜久彌）	302
市の花屋（高田三郎）	199
祈り（高槻晋次）	334
今この庭に（市川都志春）	178
海に寄する歌（平尾貴四男）	126
唄（山田耕筰）	33
駅（三善 晃）	307
追分（平井康三郎）	139
お菓子と娘（橋本国彦）	57
沖の小島（田頭喜久彌）	306
落葉林で（柴田南雄）	218
㊦かけす（安部幸明）	176

風の又三郎（山田和男）	231
仮想（高槻晋次）	332
徴（橋本国彦）	75
かもめ（高木東六）	88
かやの木山（山田耕筰）	22
からたちの花（山田耕筰）	40
枯れ葉（三善 晃）	317
かんぴょう（福井友彦）	148
汽車のけむり（小倉 朗）	256
霧（石渡日出夫）	186
草矢（名倉 晰）	52
口笛（越谷達之助）	132
栗問答（平尾貴四男）	116
こおろぎのうた（名倉 晰）	45
紺屋のおろく（高木東六）	93
㊦犀川（小倉 朗）	260
さくら貝の歌（八州秀章）	228
桜の歌（福井文彦）	147
さくら横ちょう（中田喜直）	282
さびしき野辺（柴田南雄）	221
しぐれに寄する抒情（大中 恩）	286
小譚詩（高田三郎）	189
序の歌（柴田南雄）	214
白鳥の歌（古閑裕而）	135
砂山（山田耕筰）	17
蟬（石井 欽）	266
㊦旅人の唄（中山晋平）	14
旅人の歌（橋本国彦）	62

千鳥（瀬下健二）	326	ふるさとの（斎藤佳三）	15
ちんちん千鳥（近衛秀麿）	54	Bulū bulū（伊福部 昭）	208
出船の港（中山晋平）	8	ブーンブーム・第一章（小船幸次郎）	150
天景（磯部 俊）	236	ブーンブーム・第二章（小船幸次郎）	156
遠い町（小倉 朗）	254	ブーンブーム・第三章（小船幸次郎）	162
時計台の鐘（高階哲夫）	84	ブーンブーム・第四章（小船幸次郎）	168
㊦夏の思い出（中田喜直）	277	録をおさめて（中山晋平）	10
逃げた小鳥（平尾貴四男）	124	㊦待ちぼうけ（山田耕筈）	20
沼べりの秋（瀬下健二）	321	松の花（磯部 俊）	242
野薔薇（山田耕筈）	24	祭りの夜（瀬下健二）	328
㊦箱根八里は（山田耕筈）	18	祭りもどり（平井康三郎）	138
馬車（石井 敏）	264	花林（畑中良輔）	272
✓初恋（越谷達之助）	128	水色のワルツ（高木東六）	90
花柑子（貴島清彦）	250	みぞれに寄する愛の歌（山田耕筈）	36
花のいのち（塚谷晃弘）	247	表着て通る（諸井 誠）	292
花のまち（團 伊玖磨）	290	麦笛（平尾貴四男）	119
波浮の港（中山晋平）	6	㊦山なみとおく（石田一郎）	136
林のなか（三善 晃）	314	山は雪かよ（平井康三郎）	144
薔薇（橋本国彦）	60	やわらかに柳あおめる（越谷達之助）	130
巴里の雪（橋本国彦）	64	夕焼（畑中良輔）	270
遙かな友に（磯部 俊）	235	雪のふるまちを（中田喜直）	278
斑猫（橋本国彦）	69	夢のあと（柴田南雄）	224
びいてびいて（平井康三郎）	142	夢の子守歌（越谷達之助）	134
ひぐらしのうた（名倉 晰）	48	夢見たものは（高木東六）	106
日の入り（斎藤太計雄）	114	宵待草（多 忠亮）	44
冬の森（高田三郎）	202	汚れっちまった悲しみに（石渡日出夫）	181
Buppun iū（伊福部 昭）	212	㊦レモンと海（湯山 昭）	300
ぶらんこ（諸井 誠）	298	㊦忘れられた海（三善 晃）	310

波 浮 の 港

野口雨情 作詩
中山晋平 作曲

俚謡風に(♩ = 80)

1. い そ の

う の と りゃ ひ ぐ れ にゃ
せ か れ りゃ で ね の

か え る は ぶ の み な
し た く し ま の む すめ

中山晋平 (1887~1952) の一世を風びした代表作の一つ。彼は数多くの歌曲、童謡、新民謡を残していますが、今なお大衆の間に愛唱されているのは、日本情緒を漂わせた独特な旋律にあるといえるでしょう。

と — — にゃ ゆゑ — や — け こ や —
 た — — ちゃ ご じ ん — か ぐ ら —

f *p*

け し あ す の ひ よ — — り —
 な じょ な こ — — ろ —

は や れ ほ ん に さ な ぎ る や ら
 で や れ ほ ん に さ い る の や ら

1~3. 4.
 2. ふ ね も 1~3. 4.

出 船 の 港

時 雨 音 羽 作 詩
中 山 晋 平 作 曲

浜唄風に 力強く(♩ = 44)

1 ドー と ドン と ドン と な み の り こ えー
2 エ ッ サ エ ッ サ エ ッ サ お し き る う でー
3 か ぜ に ほ づ な を き り り と し めー

て ー ー ー ー ち ゃ 二 ち ゃ 三 ち ゃ 八 ち ゃ ろ で と はー
は ー ー ー ー み ご と く ろ が ね そ の く ろ が ねー
て ー ー ー ー か じ を ま わ せ ば へ さ き は お どー

ヲ
 を
 る

サッとあがった くじらのしおのー
 なみはためそと ドンとつきあたるー
 おどるへさきに みをなげかけりゃー

ー しおのあち ら ー で あさひ ー はおー
 ー ドンとドンと ドンと ドンと つ ー きあー
 ー ゆめはで ふ ね ー の み な と ー へもー

どーるー
 たーるー
 どーるー

鉾をおさめて

時雨 音羽 作詩
中山 晋平 作曲

男らしく 爽やかに (♩ = 80)

mf

1. ほ こをお さ め て ひ のま るー あ げー て
2. な だの き ざ け ー に さ かな はー く じー ら
3. き んの お う ぎ ー の な み な みー な みー に

わねをドとぶちゃよあけのーかぜーが
 たるをたたたいてこきょうのーうたーに
 なわのたすきでこきょうのーおどーり

そーよろそーよろーとみにしみーわたる
 ゆーらりゆーらりーとひはまいーあがる
 おーとこおーとこーのちはわきーあがる

4. エ ン ヤ ッ サ ー エ ッ ヤ ッ サ ヤ ン レ ッ サ ヤ ン レ ッ サ

お ど り つ か れ て し ま か と - み れ - は

は - は ヘ み - な と - ヘ み や け の - く じ ら

出 船 の 港

時 雨 音 羽 作 詩

ドンとドンとドンと

波のり越えて

一挺二挺三挺 八挺槽で飛ばしや

サツとあがつた くじらの汐の

汐のあちらで 朝日はおどる

エツサ エツサ エツサ

押し切る腕は

みごと黒がね その黒がねを

波はためそと ドンと突きあたる

ドンとドンとドンと ドンと突きあたる

風に帆綱を

きりりとしめて

かじを廻せば へさきはおどる

おどるへさきに 身をなげかけりや

夢は出船の 港へ戻る

波 浮 の 港

野 口 雨 情 作 詩

磯の鵜の鳥や 日暮れにやかえる

波浮の港にや 夕やけ小やけ

あすのひよりは

ヤレホンニサ なぎるやら

船もせかれりや 出船のしたく

島の娘たちや 御神火ぐらし

なじよな心で

ヤレホンニサ いるのやら

島で暮すにや とほしゅうてならぬ

伊豆の伊東とは 郵便だより

下田港とは

ヤレホンニサ 風だより

風は潮風 御神火おろし

島の娘たちや 出船のときにや

船のともづな

ヤレホンニサ 泣いて解く

鉢をおさめて

時 雨 音 羽 作 詩

鉢をおさめて 日の丸上げて

胸をドンと打ちや 夜明けの風が

そよろそよと 身にしみわたる

灘の生酒に肴はくじら

樽をたたいて 故郷のうたに

ゆらりゆらりと 日は舞い上がる

金の扇の 波波波に

縄のたすきで 故郷の踊り

男男の 血は湧き上がる

エンヤツサ エンヤツサ

ヤンレッサ ヤンレッサ

踊り疲れて 島かと思れば

母へ港へ 土産のくじら

旅 人 の 唄

野 口 雨 情 作 詩

山は高いし 野はただ広し

一人とぼとば 旅路の長さ

乾く暇なく 涙は落ちて

恋しきものは 故郷の空よ

きょうも夕日の 落ちゆく先は

どこの国やら 果さえ知れず

水の流れよ 浮寝の鳥よ

遠い故郷の 恋しき空よ

あすも夕日の 落ちゆく先は

どこの国かよ 果さえ知れず

旅 人 の 唄

野口 雨 情 作詩
中山 晋 平 作曲

しずかに M.M. ♩ = 80

1. やまは た か い し の は た だ ひ ろ し
2. か わ く ひ ま な く な み だ は お ち て
3. き ょ う も ゅ う ひ の お ち ゅ く さ き は

ひとり と ぼ と ぼ た び じ の な が さ ず
こいし き ち の は こ き ょ う の そ ら よ
どこの く に や ら は て さ え し れ ず

耽美的な雨情の詩による静かな曲ですが、過度の感傷的な歌い方は避けた方がよいでしょう。

ふるさとの

三木露風 作詩
齋藤佳三 作曲

1. ふ る さ と の お
2. お と め ぐ は あ
3. と と せ へ め お

の の こ だ ち に ふ え の ね
つ き こ こ ろ に そ を は き
な じ こ こ ろ に き み な く

の う る む つ き よ や
き な み だ な が し き
や は は と な り て も

molto rit.

美術家の齋藤佳三（1887～1955）が三木露風の詩につけた曲です。この詩は感傷的なものですが、曲もまた非常に感傷的で誰でもそっと口づさみたくなるような美しい歌です。

赤 と ん ぼ

三 木 露 風 作詩
山 田 耕 箨 作曲

ゆるく おだやかに ♩ = 60



1. ゆう や け こ や け - の あ か と ん ぼ
 2. や - ま の は た け - の く わ の み を
 3. じゅう ご で ね え や - は よ め に ゆ き
 4. ゆう や け こ や け - の あ か と ん ぼ

Vocal melody and piano accompaniment for the first system of lyrics. The piano part has dynamics *p* and *mf*.

お わ れ て み た の - は - い つ の - ひ - か
 こ か ご に つ ん だ - は - ま ぼ ろ - し - か
 お さ と の た よ り - も - た え は - て - た
 と ま - っ て い - る - よ - さ お の - さ - き

Vocal melody and piano accompaniment for the second system of lyrics. The piano part has dynamics *p*, *mf*, and *p (ややおさえて)*. The final measure of the piano part is marked *poco riten.*